



タヒバリ



セグロセキレイ



コガモ



トビ



イソシギ



オカヨシガモ



オオバン

多摩川 野鳥観察

2月4日 環境モニタリング
メンバーによる野鳥観察会
冬の多摩川は野鳥観察に
うってつけの場所だが、
今シーズンはあいにく
ニヶ領の堰のあたりが工
事中でやや鳥が少な
い。また今年はユリカ
モメ・セグロカモメ・
オオセグロカモメなど
もなぜか調布では見
けないという。



見られたトリ
レイ・セグロセキレイ・
カイツブリ・カワ
ウ・コガモ・ヒド
リガモ・オオバン・
イソシギ・トビ・
ドバト・ハクセキ
ラス・カワセミ

オオバン

漢字では大鵜と書くツル目ク
イナ科の水鳥。英語で「bald
pate」という言い回しがあ
るが、日本語に訳すと「オオバ
ンのように禿げ上がった」とい
う意味である。体全体は黒色な
らう。この部分だけが白く、
そのままくちばしに連なつて
いる。これが本種を識別する
大きな特徴の一つであるが、
鳥を覚えながら同時に英語ま
で勉強できてしまうという、
まさしく一石二鳥の鳥。(石川)

オカヨシガモ

多摩川で見ることができ
カモ類は沢山いるが、その中
でも比較的珍しい、というよ
りも地味すぎて注目されない
カモがこのオカヨシガモであ
る。今日も見つけることが出
来なかったが、体がコガモく
らい小さい上に、ヒドリガモの
ように大きな群れを作ること
もなく、雄ですらマガモのよ
うに目立つ体色を持っていない。
しかし、この地味さによって、
外敵から見つかりにくいと考
えられ、自然とは良くできたも
のだと感心させられる。(石川)

イソシギ

単独で行動することが多く水
の陸地をエサを啄びながら忙
しく歩いていることが多い。喉
からお腹・肩に食い込む白色
のシンブルなコントラストがよく
目立ちます。鳴き声はピーピ
ュ。ピーリリー。

昭和41年に大学受験で上京し
た際、飯田橋の佳作座で初め
て見た洋画が「イソシギ」。往
年の映画ファンなら知っている
と思いますが、世紀の美人女優
エリザベス・テイラーと二枚目俳優
のリチャード・バートンが結婚
後初共演したもので、傷つい
たイソシギを手当する女流画
家と妻子ある神学校の校長の
恋物語。ラストシーンはヒロ
インが病の癒えたイソシギを
砂浜で放つシーンを小高い丘
の上から見ていた校長が同じ
ように妻子を捨てて旅立った
か？

(里)

花の履歴書⑬

戸部英貞 (絵・文)

オオイヌノフグリ
オオバコ科



Veronica perusica Poir

立春もとうに過ぎたと云うのに、今年の冬の寒さは各地で記録的な雪をもたらし、春の到来が遅れることが報じられている。それでも日ごとに

のイヌフグリが駆逐され、最近ではめっきり観察される機会が少なくなっていました。

強くなった陽射しに誘われ、多摩川土手を歩いてみると、日溜まりの枯れ草の中にオオイヌノフグリの青い花を見つけた。

属名の Veronica は、元々 Veto-nica (ベットニカ) が変じたもので、キリスト教の聖女ベロニカと直接関連はないが、カトリック教会の次のような伝説から花言葉に「誠実な女性」「献身」「聖なるもの」など聖女にちなんだものが付けられている。

早春の澄み切った青空を写し取ったようなこの花は、今日では日本中どこへ行っても見ることが出来る植物になり、春の季語にも使われ、早春の風物として市民権を得ている。

『少女は十字架を背負ってゴルゴタの丘へ向かうキリストを憐れみ、額の汗を拭くようにと、身に付けていたベールをさした。キリストは少女の申し出を受け、額の汗を拭き、ベールを少女に返すと、奇跡が起こり、ベールにキリストの顔が浮かび上がった。』

西アジア原産のこの草は明治20年(1887)頃、牧野富太郎博士たちによって東京で最初に帰化が報告されたが、大正時代には全国的に分布を拡げている。

このことから少女はカトリックの聖人の一人とされ、絵画や彫刻では聖顔布を手にした姿でしばしば登場する。

帰化生物は競争相手(天敵)がいらないことから、爆発的に分布を拡げることが多く、この植物も短期間のうちに全国を制覇し、その結果、同じ条件下に生育する東アジア原産

の植物も短期間のうちに全国を制覇し、その結果、同じ条件下に生育する東アジア原産

入間・樹林の会

12月18日(日) 参加者11名(内2名小学生)

初めて参加の高校生・中学生男子を強力助っ人に、スズメバチがいるであろう伐採木の山の片付けを全員で行いました。気温も10度と低く10月から懸念の作業でした。朽ちた木に何匹も潜んでいるスズメバチをみんなで恐る恐る眺めました。花はサザンカ・ツワブキ。

1月15日(土) 参加者11名

全員での方形枠調査後、樹林地内の巡回、通路整備をしたのちキムチ鍋でお楽しみ会を開きました。10代参加者が多くなるのが楽しみです。花はヤツデ。

2月18日(日) 参加者8名

最初に室内で樹林地の管理の仕方について小池先生の講義を受けました。どのような樹林地にしたいのかを考え、もっとマテバシイを切る・隣家との隣接樹木を優先する・落ち葉溜めの柵の釘は危険・放置することごみを捨てやすい環境・雑木林で剪定はあり得ない・更新するには高くなりすぎた林・樹高2m位を目安に伐採をしていく・スタッキングをしないための伐採量を考える、などのお話を聞き、指摘されたことを確認した後、滑車を使ってシュロ、ヒサカキなどの伐採を実践し、ロープの使いかたも教わりました。午後は、竹の根切りと伐採について講義を受け、根切りの実践。ツバキは花と実、ヤブミヨウガ・ヤブコウジは実が見られ、鳥はアオゲラ・コゲラ・シジュウカラ・メジロが確認されました。(安部)



若葉緑地の会

12月11日(日) 参加者9名

富士山の眺望を確保するため、高枝の伐採を行う。眺望良好。間伐、草刈り、花壇の整理など。ようやく藪蚊に悩まされなくなりました。

12月22日(木) 参加者3名

緑地増設区域の整備を始める。

来年度の活動について、意見交換。

1月8日(日) 参加者13名

緑地全体の落葉掃きを行う。

開園当初の状態が分かるように残しておいたシュロ・アオキが原を縮小しようと意見がまとまり、シュロ・アオキの伐採を行う。

千両、万両の生育を確認しました。

1月19日(木) 参加者2名

緑地増設区域のシュロ取りを行う。

2月12日(日) 参加者10名

緑地南側の小木を伐採、林床への陽光の取り込みを改善する。緑地増設区域のアオキの根掘を行う。

来年度の活動計画について意見交換、『力二山をみたい!』との意見もありました。(住田)



←増設された緑地に芽吹いたスイセンと桜の花木

記録コーナー

力二山の会

ちょうふあちこち 植物多様性センター



以前紹介したことがある東京都のグリーンギャラーが植物多様性センターとして絶滅危惧種の保存その他の研究活動拠点として生まれ変わります。工事のため様々な植物が伐採されちよつと淋しい感じですが、先日はイチョウの大木を移動するため、巨大なクレーンが入り、その重さで入り口のレンガタイルは見る影もなく壊れていました。それほど大木とは思えないイチョウですが、その根巻の大きさは圧倒されます。

何故ムクドリは可愛くないか

好きな鳥は人それぞれだが、大概は色の鮮やかな鳥、小さい鳥、鳴き声の美しい鳥などが好まれると思う。その点ムクドリは全て失格。私はかねがね、こんなにも可愛くない理由はなんだろう? と思っていた。

最近気づいた決定的な点はその歩き方である。スズメなどがピョンピョン跳ぶように移動するのはなんとも可愛いのだが、ムクドリは大きな足でヨチヨチとニワトリのように歩くのである。同じようなサイズのツグミは足早で止まった瞬間に胸をはる、これは合格。ともかくムクドリが好きという方がいたら是非その魅力をお聞かせ願いたい。

(NK)

雑木林連絡会

1月19日 環境市民会議所属4団体と凸凹森の会(布田崖線保全団体)も交え、緑と公園課と「雑木林連絡会」と称する話し合いの場を設けました。

雑木林保全については、所管が緑と公園課となります。

今後は、雑木林連絡会の運営など環境市民会議が事務局となつて各団体との情報交換ほか、崖線緑地の保全活動に取り組んでいきます。

市民活動の記

12月10日(土) 参加者4名

今日は階段修理の他、伐採枝の片付けを行い2袋分の枝葉は野草園前の集積所迄運び出しましたが、東樹林下側の出入り口の外に積上げた大量の一抱えもある丸太や枝は、市民が運び出すのは困難です。そこで、緑と公園課に処理をお願いすることにしました。(江刺)

1月14日(土) 参加者8名

年の仕事始めには例年山開きと称してリーダーの小島さんに倣い、安全祈願をしている。今回はお神酒を供えるための竹の入れ物も作成。中細の竹を切り出し、竹の皮一枚ずつつながるように竹を二つ折りにしてシュロ縄で縛る。お米やノコなどと共に大木の下にお供えし、おごそかな気持ちになったところで皆で二礼二拍手一拝。

その後はキャンプ場の力マドを使って懇親会をしながら力二山の会の看板作り。また板引き用オノコを使い大きな切り株から板を切り出してみました。(鍛冶)



2月11日(土) 参加者4名

東樹林に隣接する東側民地の樹林が全部伐採されていました。すっかり見通しが良くなり(?)、こういう地形だったのか、と確認出来たのですが、雰囲気がすっかりかわりました。隣接側の日当たりと風通しが良くなりすぎるので、今後の保全活動のやり方を考える他、調布市が東京都で買って貰えないのだろうか? などなど、みなさん、相当ショックをうけていました。(江刺)



若葉の森3・1会

12月4日(日) 晴れ 参加者9名

第一緑地から第2緑地へ上る階段の崩れを補強し、また、階段の横の斜面の土が崩れた部分は市役所が土留めを行い、美しく完全な形で補強されました。感謝。

西側の大木の横の中木を1本、林床に陽をあてるため手順に従い倒木。下屋敷坂と人が歩く通り道の落ち葉かきをし、歩きやすくしました。台風での倒木の一部を使い、座るためのベンチを作りました。

2月5日(金) 曇り 参加者9名

下屋敷坂からの北側の入り口に丸太で階段の補強、小木の伐採、コンポスト柵で囲った中の落ち葉かきなどを行いました。なお、高木の途中の2カ所にぶら下がっていた枯れた大枝は市役所により除去。感謝。

2月19日(日)

「環境保全団体大集合!」環境市民の交流イベントに参加。木々の間から見える富士山の写真や活動紹介のポスターを会場に展示して会のPRと他団体との情報交換を行い有意義でした。(K)



富士山が見える!



ベンチ



補強された階段

野川のごまげんうかがい



マシジミ

3月3日 野川大橋近くの湧水が流れ込む付近で水生生物調査を行いました。講師は宮地先生と石川先生です。

単にゴミのかたまりに見える物も、ヒゲナガカワトビケラという昆虫の幼虫で水中の石の間に網を張り、砂で作った繭とのこと。また同じミズムシという名前の生物でも昆虫と甲殻類がいることなどなど、思わず「へえ」と声があがります。

色々な昆虫や甲殻類に混じって絶滅危惧種のメダカも確認されました。また用水路が流れ込むところにマシジミの殻が沢山見られるのは、雨天時の増水で泥水と一緒に高水敷に打ち上げられた貝が呼吸が出来ずに死んだものと思われる。

今日はヒラタドロムシ・トビケラ・ヌマエビなど20種以上の小さな生き物を確認しました。(身近な川を見守る会＋環境市民会議)

ちょうふの自然

みつけた！

いただいたメールより

1/25 年明けくらいから我が家の庭に時々顔を見せるヒヨドリ。メジロ用に置いてあるミカンを丸呑みしようと四苦八苦しています。昨年はツグミも数羽、同じように訪れていたのですが今年は全く姿を見せません。多摩川に出かけるチャンスも無いせいか今シーズン一度も見えていないのですがどなたか見かけていますか？

メジロとシジュウカラは変わらず顔を見せます。先日総合体育館のあたりを歩いていたら5〜6羽のシジュウカラが大きな木から木へ飛び交っていました。(K)

◆貴邸に餌を求めて飛来したヒヨドリは多分北海道から津軽海峡を越えて渡って来たものと考えられます。この冬になつて多摩川の調布エリアでは未確認です。10日に府中の浄水場下の河原の木に数羽止まっていたことが本来ならこの時期には単独行動に入っていますが、正月休みでいったい東伊豆でもゼロでした。先日多摩川情報館の講座で市内在住の野鳥写真の第一人者叶内氏も見当たらないと：東日本大震災で日本列島が東に60センチずれたことも？と言いがら現時点では原因は不明だそうです。(A)

※その後2月にはツグミが見られたとの報告あり。3/1には都市森の丘でも数羽のツグミを見かけました。

2/21 数日前、あるブルグで野川公園の自然観察園に「セツブンソウがいつぱい咲いている」とあったので、今日訪れると記事の通りこれまで見たこともない数の節分草が一緒に花を開いていました。思いっきり種を撒いたのでしようね、それにしてもよく育ったもんです。半量余の育成エリアが二面あり、同じように世話してるのでしようが、もう一面の方は発芽数が少なく生育も遅れてました。十名弱のボランティアの方が其々長い孟宗竹を担いで崖の林の方に入って行きまして、帰りに覗いてみると鋸や掛矢の音が響き、落ち葉溜めまわっていました。春を迎えて、雑木林の作業もいよいよ本格始動です。(S)



右 雪の中 野川のカモ池ノ上の崖線林

2/29 雪を見るとうずうずして外に出たくなる性分です、今朝もカメラをもって出かけました。雪が降りしきる中だったので、レンズに飛び込んできてカメラはびしょびしょ、さんざんでした。(S)

環境市民活動スケジュール

入間・樹林の会

原則毎月第3日曜に樹林の保全活動を行っています。参加希望者は直接入間地域センターへ。

● 3/18 (日) 9:30 ~ 12:00
● 4/15 (日) 9:30 ~ 12:00

カニ山の会

毎月第2土曜に自然広場で保全活動を行っています。野草園横直接集合

● 3/10 (土) 10:00 ~ 12:00
● 4/14 (土) 10:00 ~ 12:00

若葉緑地の会

原則毎月第2日曜と次の木曜に若葉町3丁目第3緑地で保全活動を行っています。参加希望者は直接現地へ。

● 3/11 (日)・22 (木) 9:30 ~ 12:00
● 4/8 (日)・19 (木) 9:30 ~ 12:00

若葉の森3・1会

原則毎月第1日曜に若葉町3丁目第1・2緑地で保全活動を行っています。参加希望者は直接現地へ。

● 3/4 (日) 9:30 ~ 12:00
● 4/1 (日) 9:30 ~ 12:00

凸凹森の会

原則毎月第4日曜に若宮自然広場(凸凹山児童公園隣接)で活動を行っています。参加希望者は直接現地へ。

● 3/25 (日) 10:00 ~ 12:00
● 4/22 (日) 10:00 ~ 12:00

◆活動への参加、その他は緑と公園課へお問合せ下さい。042-481-7083

市民発 ちょうふの自然だより

◆「ちょうふの自然だより」はカンパとボランティアで支えられています。2009.3.15に設立された市民団体「ちょうふ環境市民会議」が発行しています。隔月で1000部発行。調布市内の身近な自然情報や市民の保全活動の記録、環境イベント案内、コラムなどを掲載。市民会議ホームページにバックナンバーを掲載しています。併せてご覧下さい。

◆“自然だより”の置き場所：地域福祉センター、たづくり11F みんなの広場、調布市環境部(市役所8F)、市図書館10館、あくろす2・3F、郷土博物館、実篤記念館、多摩川自然情報館のほか、野菜食堂みさと屋さんなど。置き場所&応援カンパ募集中です！

発行：ちょうふ環境市民会議 連絡先：info@chofu-kankyo-shimin.org

◆この自然だよりは ちょうふ環境市民会議ホームページにも掲載しています◆